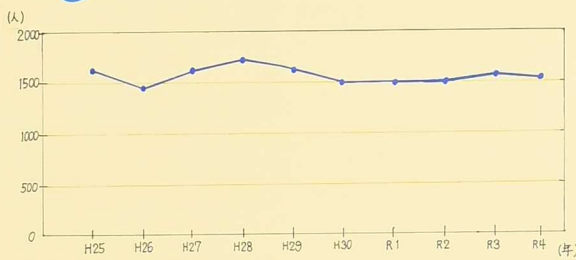


減らそう！ 水難事故

調べようとしたきっかけ

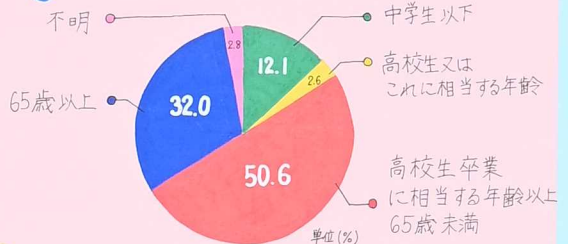
毎年夏の時期になると痛ましい水難事故のニュースが流れる。水難事故が最近増えているように感じたので、実態を把握して私たちに何が出来るかを考えてみた。

1 発生者数の推移



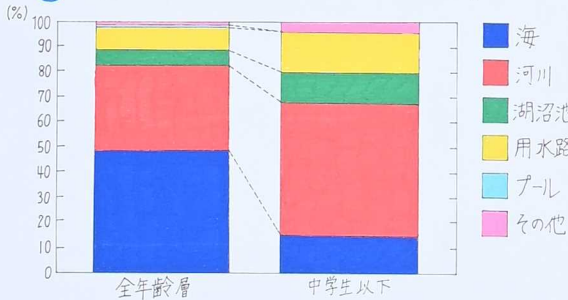
POINT ほぼ横ばいが続いている！

2 水難者の年齢層別比率(令和4年)



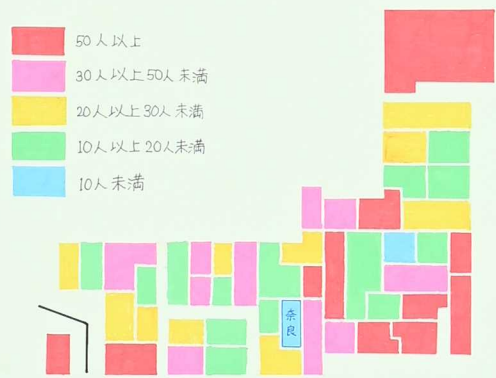
POINT 活動範囲が広がると増える！

3 死者・行方不明者の場所別比率(令和4年)



POINT 中学生以下は河川事故が多い！

4 都道府県別水難発生状況(令和4年)



POINT 奈良県は少ない！

考察

- ① 毎年、全国で水難事故の発生がニュースで取り上げられているが、統計的にはほぼ横ばいで、劇的に減少はしていない。
- ② 年齢層別の発生者比率では、行動範囲が広がる高校生卒業以降で約80%を占めるなど多くなっていることがわかる。このことから、行動範囲の広さも関係していると考えられる。
- ③ 死者・行方不明者の発生場所別の比率では、全年齢層で見ると「海」が最も高いが、中学生以下のみで見た場合は、「河川」の方が高くなっていることがわかる。これは河川の方が身近であることと、河川の方が危険に対する意識が軽視されやすいことが考えられる。
- ④ 都道府県別の発生者数では、奈良県での発生は少ないが、海に面していないためだと考えられる。しかし、行動範囲が広がれば、海がある都道府県で水難事故にあう可能性がある。

奈良県は少ないから大丈夫だと過小評価せずまだ行動範囲のせまい中学生以下の時から水難事故の恐怖と予防行動について知ることが大切である。水との正しい接し方を学び、全国的な事故減少に繋がりたい。

(出典) 警察庁生活安全局生活安全企画課「令和4年における水難の概況」